

資料1

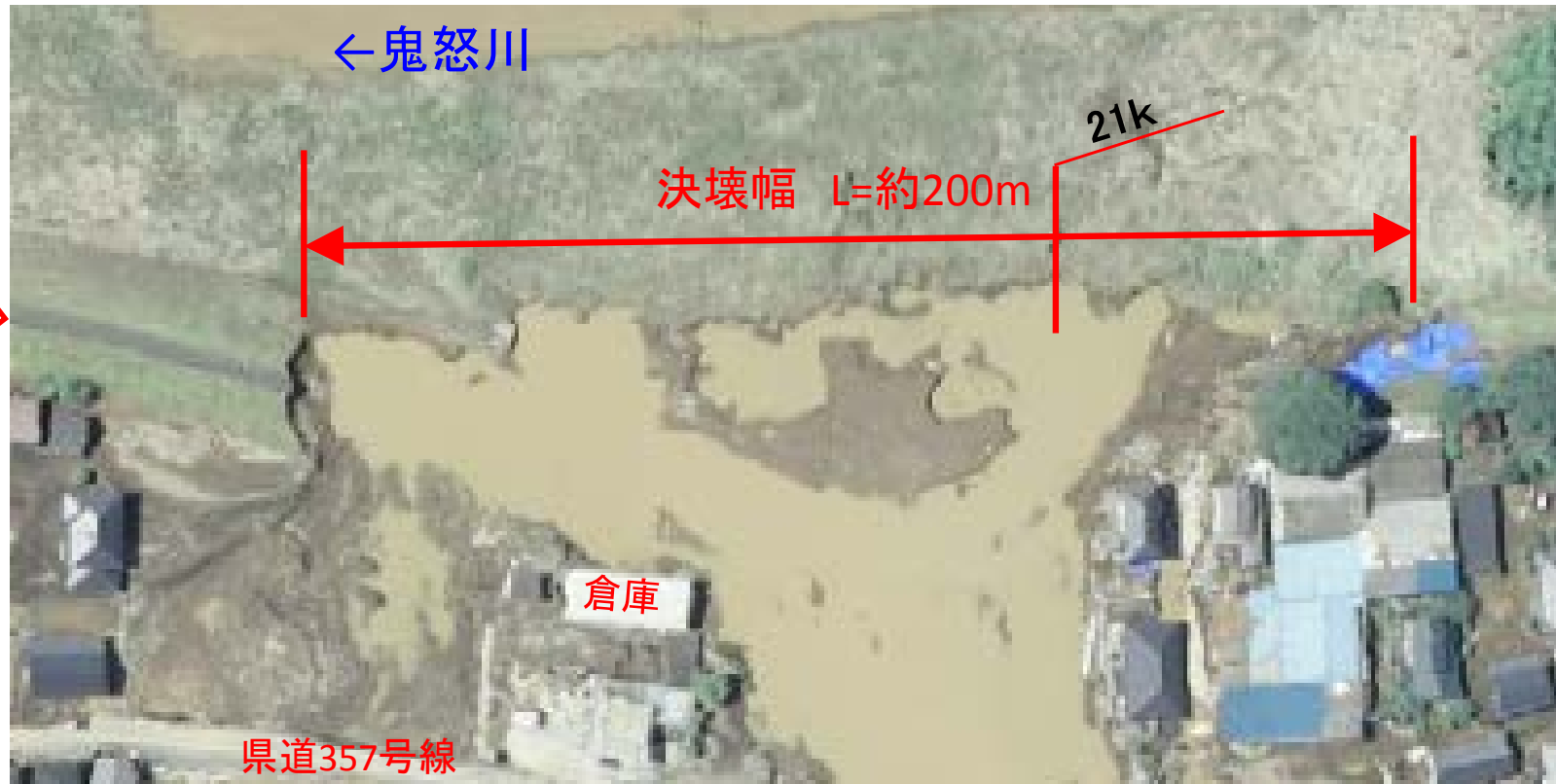
第4回 鬼怒川堤防調査委員会資料

決壊区間の現地確認状況報告

平成28年3月7日

国土交通省 関東地方整備局

②下流側
撮影方向



①上流側
撮影方向

平成27年9月12日撮影

【①上流側より】

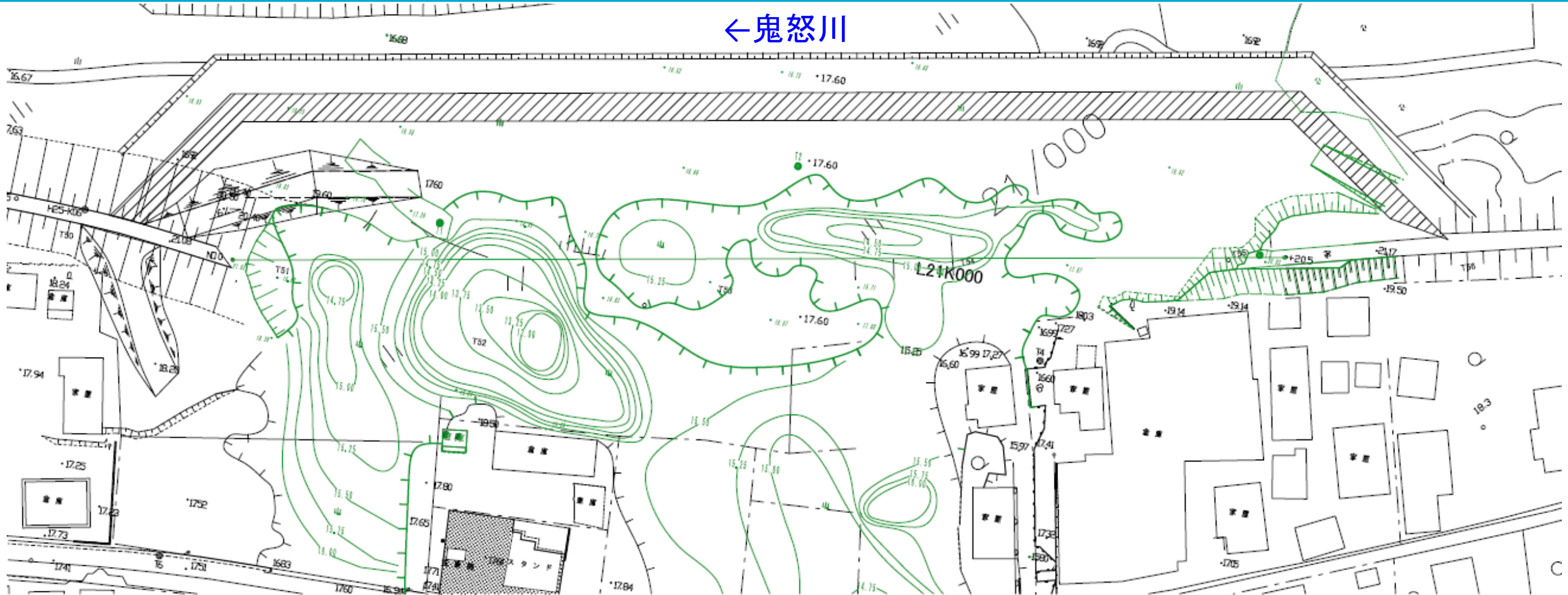


【②下流側より】

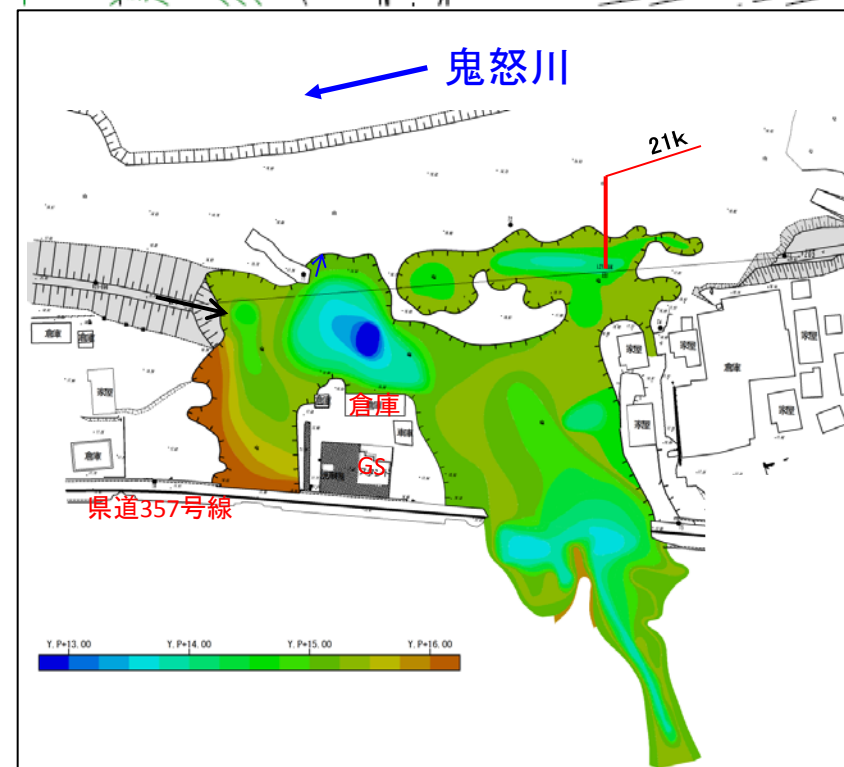


※今水出水に関する数値等は速報値であり、今後変更となることある。

←鬼怒川



決壊区間の航空写真(H27.9.12撮影)

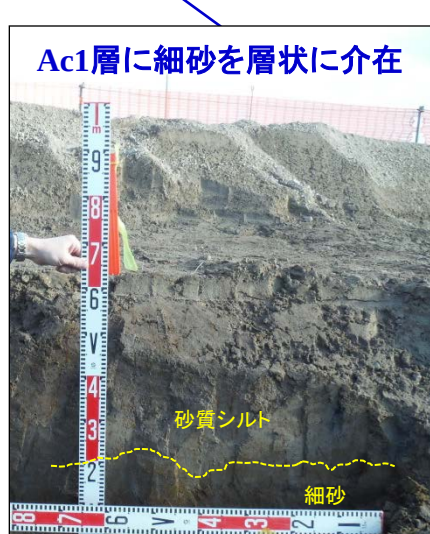
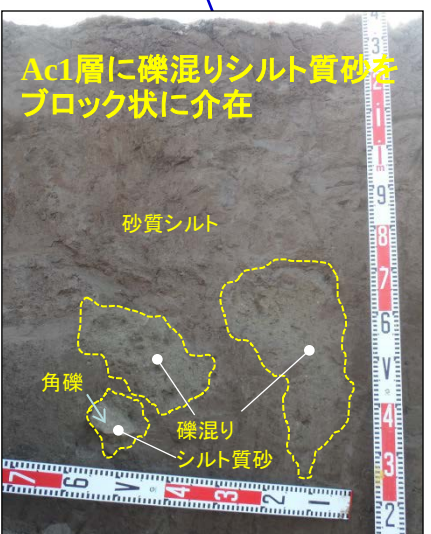
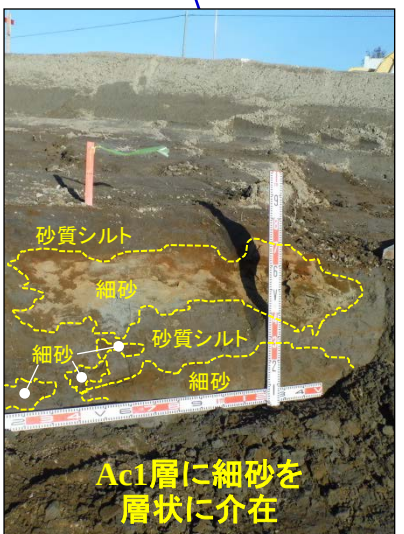
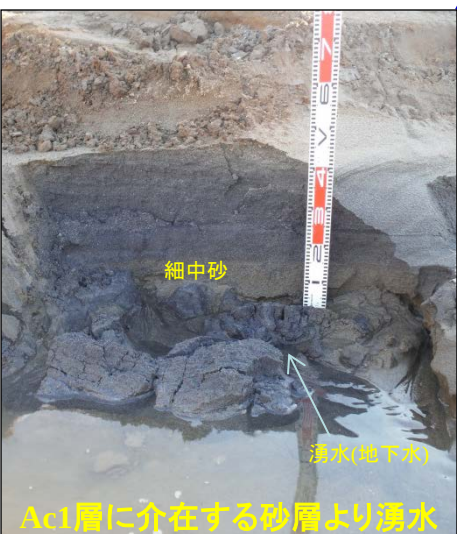
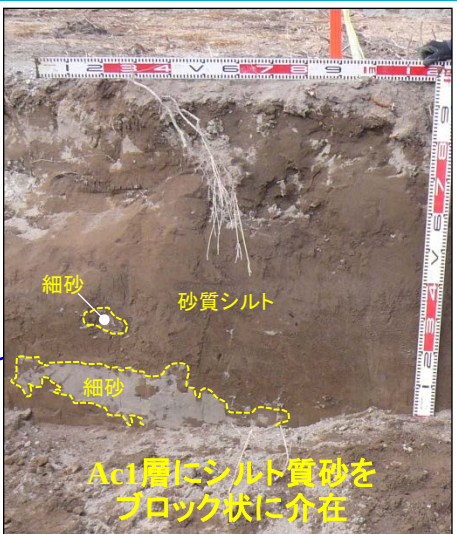
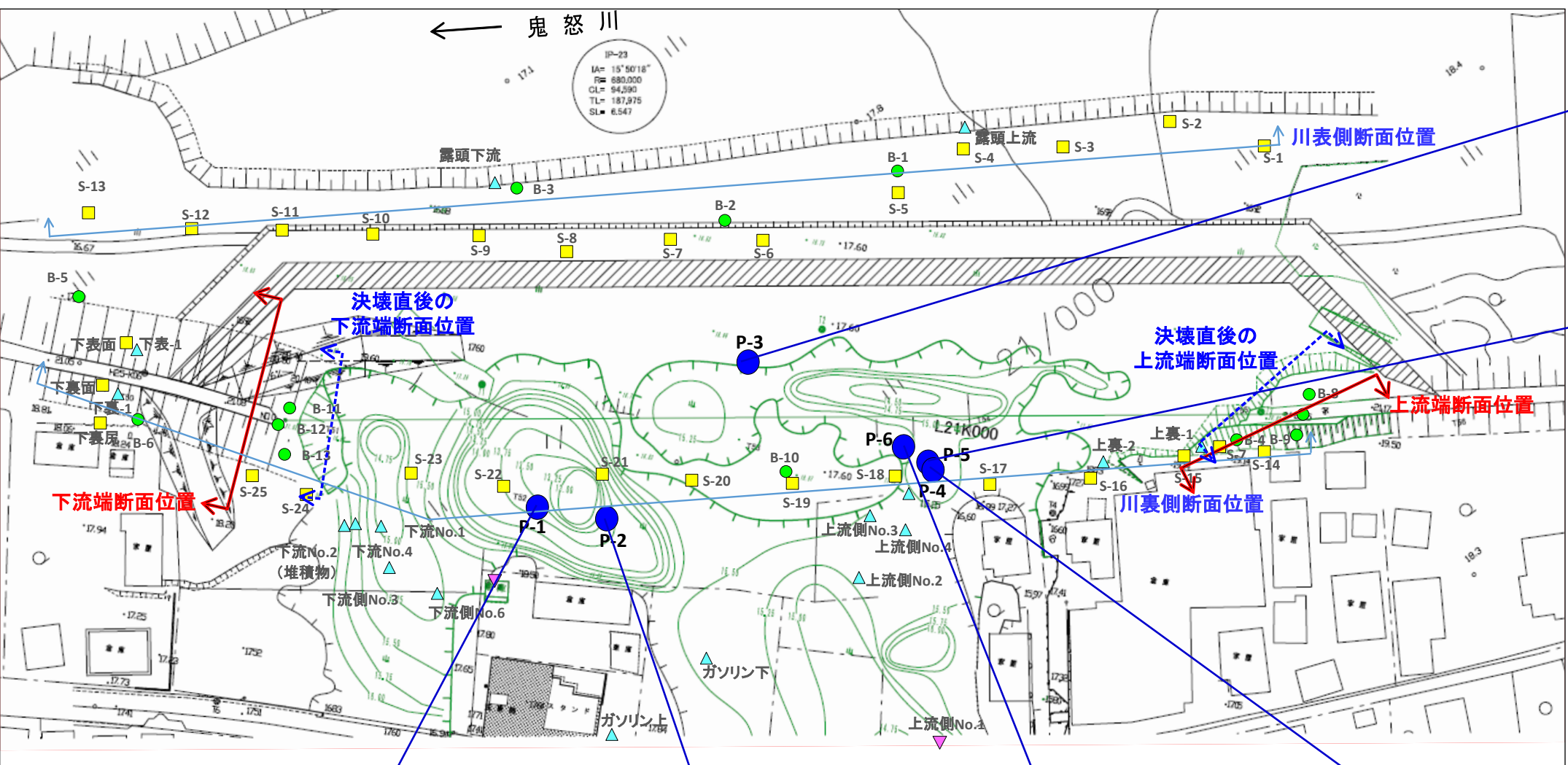


決壊区間の地盤高コンター図(H27.9.11、19測量)

※今次出水に関する数値等は速報値であり、今後変更となることがある。

1. 決壊区間の基礎地盤状況

- 決壊区間の基礎地盤には、地表面より粘性土(Ac1層)が露頭している。
- Ac1層は、概ね砂質シルトで構成されるが、砂をブロック状や薄層状に介在する箇所がある。

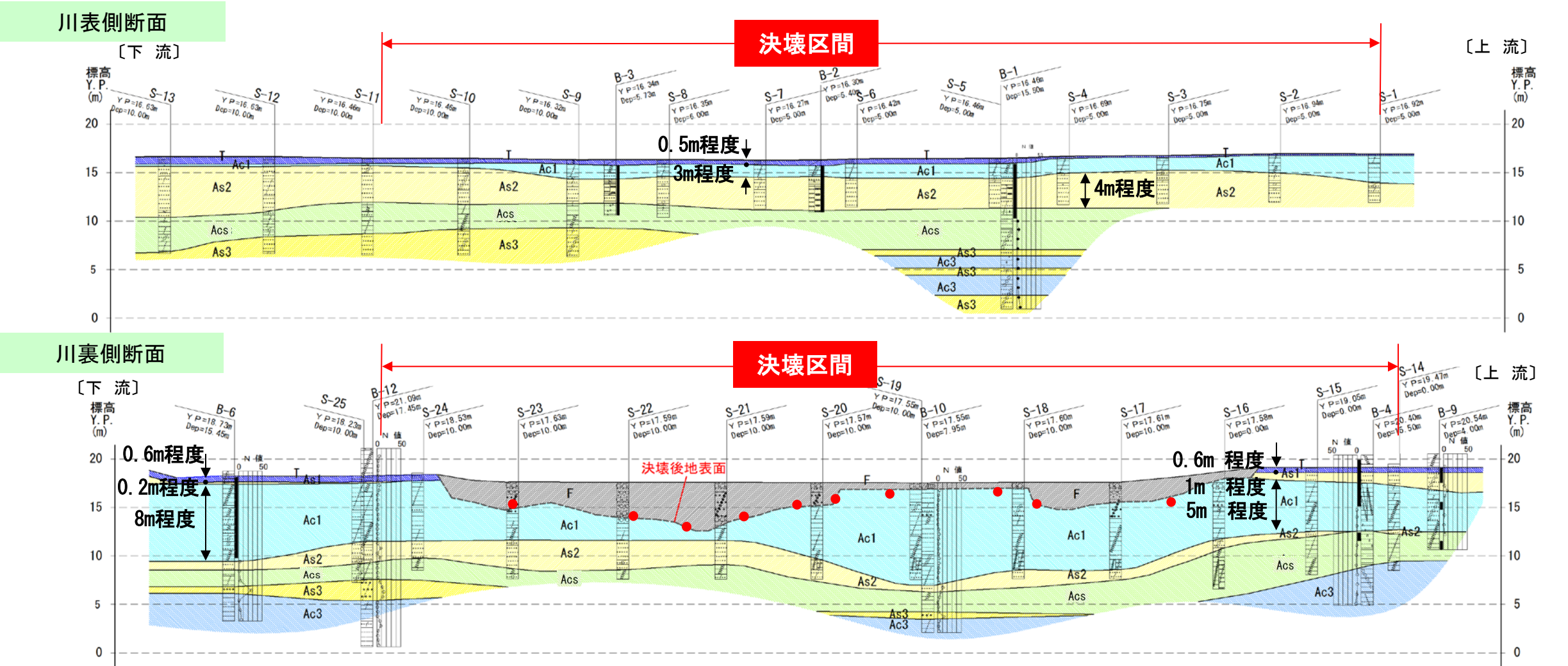


- 【 凡 例 】
〔既往調査〕
- : ボーリング
 - : スウェーデン式サウンディング試験
 - ▲ : 物理試験
 - ▼ : 露頭確認位置
 - ↑↑ : 堤防縦断方向断面位置
 - ⬇⬇ : 決壊直後の堤防観察位置
 - 〔荒締切撤去後の追加調査〕
 - : 地層状況の確認位置
 - ↑↑ : 堤防観察断面位置

※今次出水に関する数値等は速報値であり、今後変更となることがある。

2. 決壊区間の堤防縦断方向の地質縦断面図

- 決壊直後からの調査において、川表側高水敷の地質構成は、地表よりやや硬質な粘性土が0.5m程度、3m程度の粘性土層が覆い、その下位に4m程度の砂質土層が堆積し、その下位に粘性土層が存在する。
- また、川裏側堤体法尻付近の地質構成は、上流側では地表0.6m程度を粘性土層が覆い、その下位に1m程度の砂質土層、5m程度の粘性土層が存在する。下流側では地表0.6m程度を粘性土層が覆い、その下位に0.2m程度の砂質土層、8m程度の粘性土層が存在する。その下位に砂質土層が堆積している。

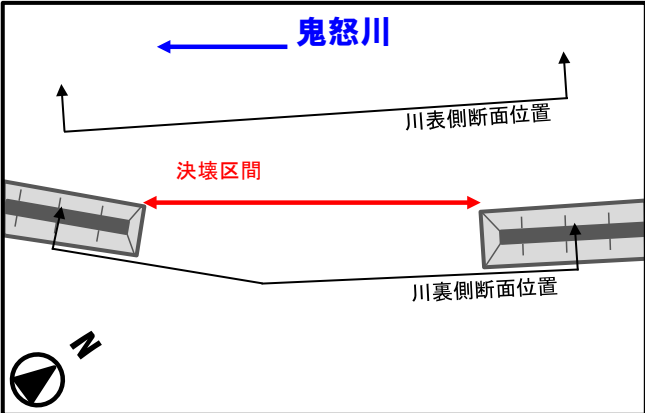


凡例
● : 荒締切撤去後の地盤高
※観測日:平成28年2月19日

地質層序表			
地質時代	地層名	土質名	記号
新 第 生 四 代 完 紀 新 世	堤 体	粘性土	Bc
		砂質土	Bs
		埋戻土	F
		表 土	T
	沖 積 層	砂質土	As1
		粘性土	Ac1
		砂質土	As2
		中間土	Acs
		砂質土	As3
		粘性土	Ac3

柱状図：土質区分凡例

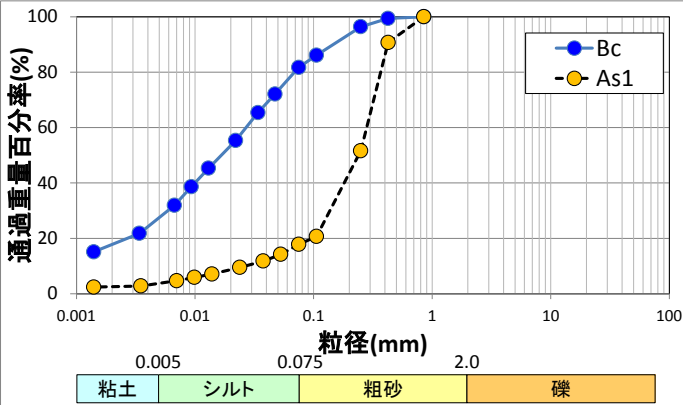
砂・砂質土	砂質シルト
シルト混り砂	砂混りシルト
シルト質砂	シルト・粘土



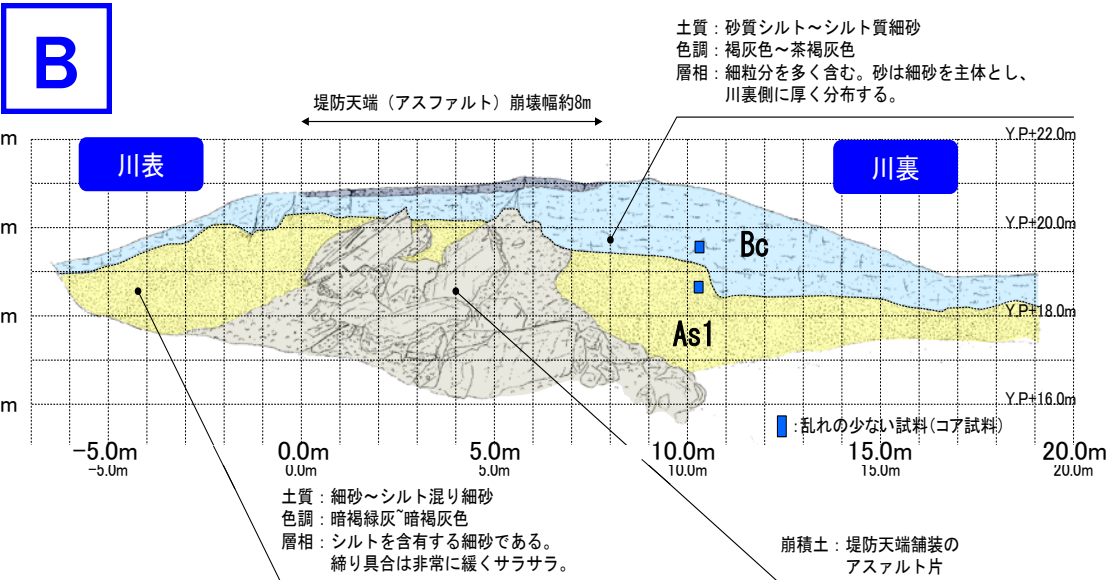
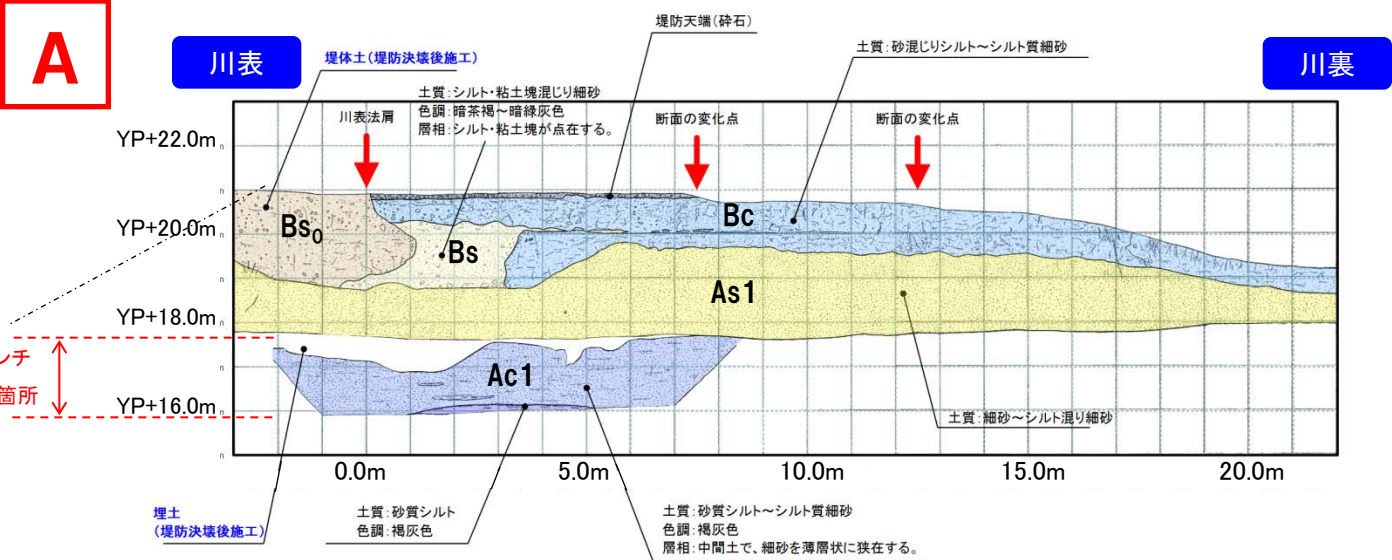
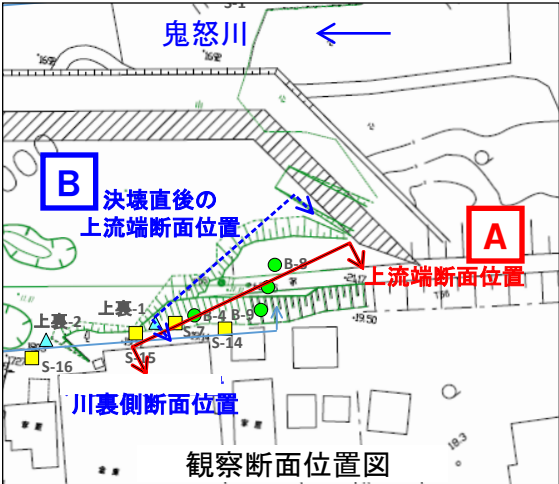
※今次出水に関する数値等は速報値であり、今後変更となる可能性がある。

3. 決壊区間の上流端断面

- 堤体については、緩い砂質土が粘性土で覆われた構造である。
- 基礎地盤については、堤体の緩い砂質土の下位に粘性土が分布する。



粒径加積曲線図(決壊直後の調査結果)



撮影日：平成27年9月11日

撮影日：平成28年2月17日



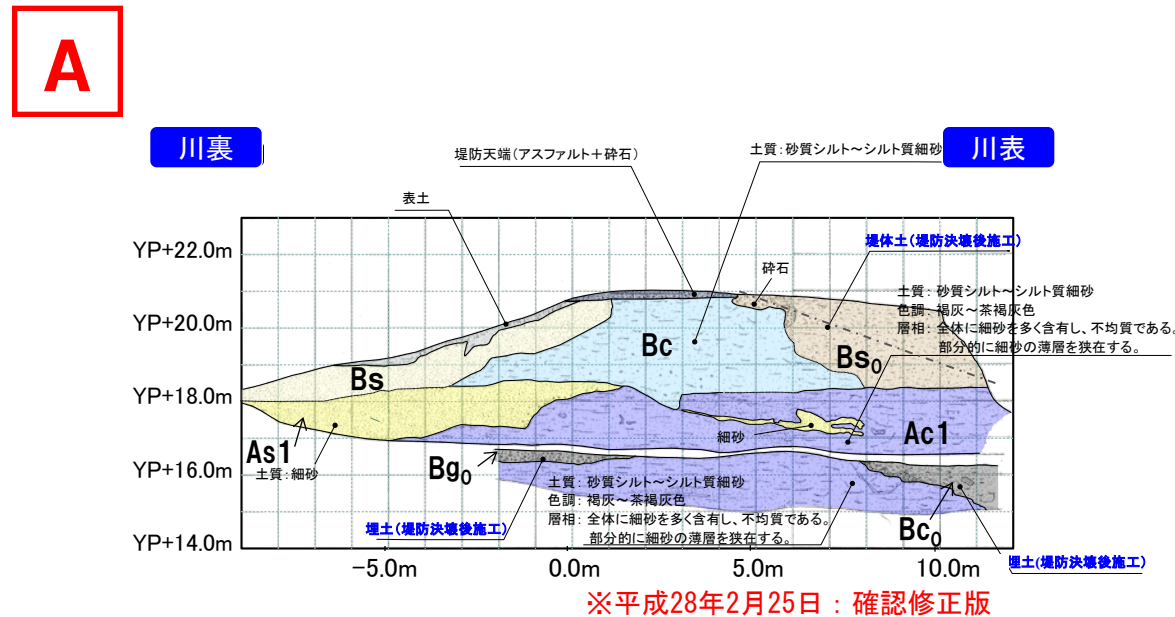
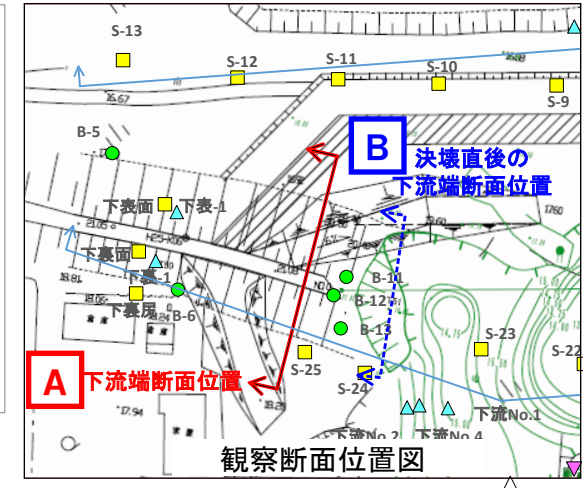
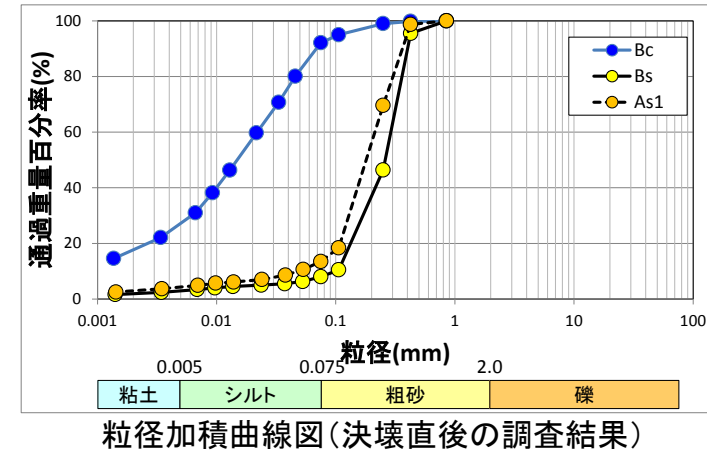
トレンチ掘削箇所

今回の堤防断面調査

決壊直後の堤防断面調査

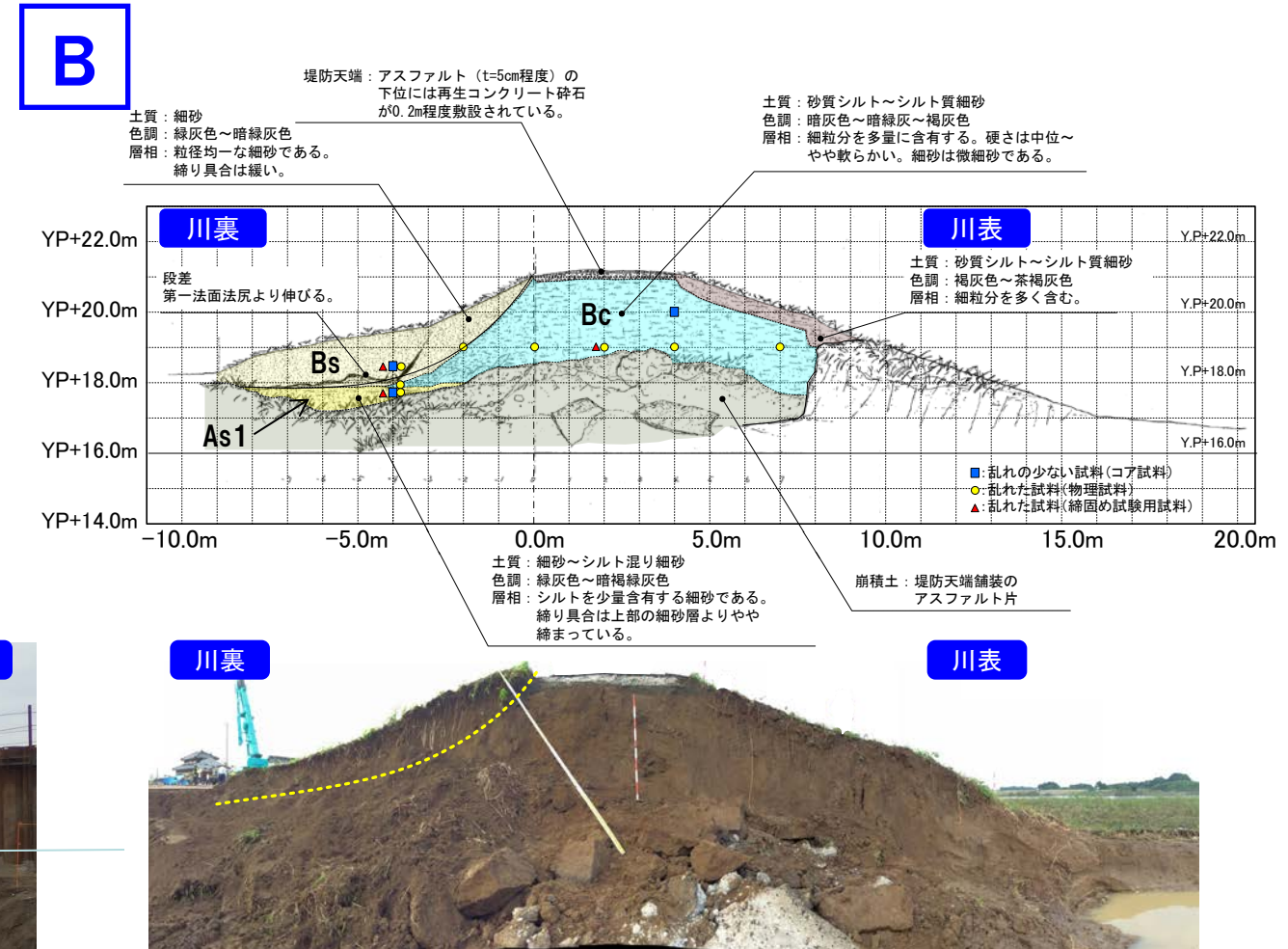
※今次出水に関する数値等は速報値であり、今後変更となることがある。

- 堤体については、粘性土を主体とする構造であるが、川裏側には、砂質土が存在する。
- 堤体直下には粘性土が存在し、川裏側では部分的に自然堆積と考えられる砂質土が存在する。



撮影日：平成28年2月25日

今回の堤防断面調査



撮影日：平成27年9月12日

決壊直後の堤防断面調査

5. 決壊区間の治水地形

■決壊区間は、治水地形分類図によると、扇状地氾濫平野の微高地に分類される。



治水地形分類図凡例				
大分類	中分類	小分類	細分類	記号
山地				
台地・段丘		段丘面		
		崖(段丘崖)		
		浅い谷		
低地	山麓堆積地形	山麓堆積地形		
	扇状地			
	氾濫平野			
	[扇状地, 氾濫平野]	微高地(自然堤防)		
		旧河道	旧河道(明瞭)	
		旧河道	旧河道(不明瞭)	
		落堀		
	氾濫平野	後背湿地		
人工改変地形	砂州・砂丘	砂州・砂丘		
		干拓地		
		盛土地・埋立地		
		切土地		
		連続盛土		
その他の地形等	天井川の区間	現河道・水面		
		旧流路	S.30年代後半～S.40年代前半	
			S.20年代	
			T.末期～S.初期	
	地盤高線		M.末期～T.初期	
			M.中期	
		主曲線		
		補助曲線		

※今次出水に関する数値等は速報値であり、今後変更となることがある。